

教育委員会

令和7年度 重点目標

- | | |
|---|-----------------|
| 1 | 「上田市教育支援プラン」の推進 |
| 2 | 安全・安心な教育環境の整備 |
| 3 | 文化遺産の保存・継承・活用 |
| 4 | 生涯学習の推進と学習環境の整備 |

令和7年度 重点目標管理シート

重点目標		「上田市教育支援プラン」の推進			部局名	教育委員会	優先順位	1 位
総合計画における 位置付け		第5編 教育【生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり】 第1章 次代を担う人づくり 第1節 教育環境の整備と地域ぐるみの教育推進			上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」に おける位置付け	2 教育・子育ての環境・文化の充実を促進する		
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラム における位置付け								
現況・ 課題	人口減少やグローバル化、人工知能などの技術革新により社会が急速に変化する中、児童生徒が「自ら学び、自ら考え、判断して行動する力」を身につけることが重要です。学校、家庭、地域、関係機関が連携し、いじめや不登校などの未然防止と早期対応、支援体制の構築を図り、すべての児童生徒が安心して学べる環境づくりが必要です。核家族化や少子化の進展などにより子どもを取り巻く環境が大きく変化している中で、子どもの教育に多くの人が携わり「地域の子どもは地域で育てる」地域ぐるみの教育を行うことが必要です。地域の実情や特性に配慮しながら、今後の望ましい教育の方向性としての「小中学校のあり方」の検討を進める必要があります。							
目的・ 効果	令和3年度からスタートした第3期上田市教育支援プランでは「上田市教育大綱」の基本理念「 燦(さん)と輝く上田の未来を紡(つむ)ぐ人づくり 」に込められた思いを受け「 確かな学力を養う 」、「 ふるさと「上田」を愛する心を育む 」、「 未来を切り拓く力を養う 」の3つの基本目標を掲げています。変化の激しい予測困難な時代において、児童生徒の学ぶ意欲や生きる力を育み、児童生徒が自ら未来を切り拓くことができるよう様々な施策を推進します。				該当する SDGsの目標			
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
①	○確かな学力の育成 (1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 (2) ICTを活用した効果的な授業の推進	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 学力向上委員会を中核に、各校の授業改善に向けた取組を推進 「授業がわかると回答する児童生徒」の割合向上 (2) 「協働的な学び」の場面におけるICT使用頻度の向上	(1) 「授業を語る会」を2回開催（参加者延べ89人） 「学力向上委員会」による先進市視察実施（埼玉県戸田市：参加者26人）、「授業研究会」全2回中1回開催（参加者21人） 「授業がわかる」と回答した児童生徒の割合：令和6年度81.3%、令和7年度76.6% (2) ICT支援員9人による全小中学校での授業支援、上田GIGAスクールサイト更新、情報教育主任会2回開催、夏季情報教育研修会開催（講演会：参加者363人）、授業支援システムのトライアル実施		(1) 「授業を語る会（2回開催、参加者延べ89人）」を通じて、授業づくりや学級経営の悩みを他校教員と語りあうことで、授業改善の意欲が高まった。「学力向上委員会」による県外先進地視察（埼玉県戸田市：参加者26人）、「授業研究会（参加者42人）」を2回開催し、各校の授業改善を図った。 (2) ICT支援員9人を継続配置し全小中学校の授業支援を実施、上田GIGAスクールサイト更新、情報教育主任会（4回）、夏季情報教育研修会（参加者363人）を行い小中学校とも授業時のICT使用頻度が向上、1人1台端末の更新及びネットワーク整備を実施		
②	○すべての子どもに寄り添う支援 (1) 信州オーブンドアスクール設置推進 (2) 相談支援体制の充実強化	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 設置検討委員会による検討、学校基本方針策定、国・県との協議深化 (2) 校内相談及び支援体制の充実、スクリーニング会議による支援体制の構築	(1) 設置検討会議を4回開催 県がオブザーバーとして参加 「上田市オーブンドアスクール（仮称）を設置することが望ましい」との決定をいただく。 (2) 教育相談所指導主事の全校訪問（不登校・不応応体制の確認・支援）実施 SSW4人が参加するスクリーニング会議開催（31校） 「不登校対策指導委員会」及び「心の教室相談員研修会」開催（ともに全2回中1回開催）		(1) 外部有識者による設置検討会議を4回開催し、「上田市オーブンドアスクール（仮称）を設置することが望ましい」との決定や、設置に係る「構想」、「コンセプト」、「基本方針」について提案をいただいた。 検討会議での提案内容を踏まえ、設置に向けた課題整理、庁内協議、住民説明等を実施し、設置の方針及び建設場所を決定した。国及び県と学校設置に向けた協議を開始し、開校に向けた準備に着手した。 (2) 教育相談所指導主事の全校訪問（不登校・不応応体制の確認・支援）により、支援体制に係る課題への助言と指導を実施した。SSWが参加するスクリーニング会議（33校）により、効果的な支援に向け、役割分担の明確化など支援体制の強化を図った。「不登校対策指導委員会」及び「心の教室相談員研修会」開催（各2回）により、支援者間の情報共有と連携強化を図った。		

③	○学校部活動から地域クラブ活動への展開推進 (1) 地域クラブ活動推進協議会における論点整理、対応策協議 (2) 地域展開推進コーディネーターによる、地域及び学校間連携の推進	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 論点整理と具体的対応方針決定 (2) 新たな活動場所の創出、運営主体の選定	(1) 地域クラブ活動推進協議会及び小委員会において協議を行い、「上田地域クラブ基本方針」を策定 地域クラブの創設支援策としての補助金交付要綱を制定（10月告示予定） (2) 当面の運営主体を教育委員会とし、市長部局と連携した推進体制を構築 6月からコーディネーターを2名体制とし、学校や関係団体との協議を加速化	(1) 地域クラブ活動推進協議会及び小委員会において協議を行い、「上田地域クラブ基本方針」を策定した。地域クラブの創設支援策としての補助金交付要綱を制定（10月告示）、地域クラブが子どもたちに親しみやすいものになるように市内小中学生を対象に愛称を募集し、決定した。愛称「うえJOY」 (2) 当面の運営主体を教育委員会とし、コーディネーターを2名体制としたほか、学校教育課内に専任の係を設置するなど体制の強化を図った。これにより、学校や関係団体との協議を加速化させ、令和8年4月から先行して活動を開始する52クラブの創設を支援した。その他、公民館等の活動団体42団体から中学生の受け皿として登録をいただいた。吹奏楽や合唱の部活動について、信州国際音楽村や民間企業のサポートにより、地域クラブ化に向けて大きく前進した。
④	○放課後児童施設における良質な保育環境確保 (1) 秋和児童センター大規模改修 (2) 東部児童クラブ集約化事業	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 令和8年度実施に向けた実施設計、一部関連改修を実施 (2) 令和8年度末の事業完了に向けた、基本設計及び実施設計	(1) 令和8年度の大規模改修実施に向けた実施設計を実施、一部関連改修を実施 (2) 令和8年度末の事業完了に向けた基本設計完了、実施設計の実施	(1) 地元自治会等と協議を行い、令和8年度の大規模改修工事に向けた実施設計業務及び一部関連改修工事を完了 (2) 令和8年度からの集約化工事に向けた実施設計業務を完了工事に向け、地元自治会や学校関係者等への周知を完了
⑤	○豊かな心と健やかな身体の育成 (1) 児童生徒の食育・健康教育の推進 (2) 安全・安心な学校給食の提供	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) ① 食に関する情報提供及びイベントの実施 ② 給食・生活習慣病予防の指導資料を作成し、教職員へ提供、児童生徒への食育・健康教育の充実を図る (2) ① 第二学校給食センターにおける食物アレルギー対応の充実（対応食の種類や頻度を増やすための体制整備等） ② 学校給食において生活習慣病予防の対策に配慮した献立の実施	(1) ① 広報10月号に学校給食の食に関する情報を掲載、11月に食育イベント（第二学校給食センターの見学及び試食、食育・運動講座）を実施予定 ② 指導資料の作成・配布を後期に実施予定 (2) ① 食物アレルギー対応食（卵と乳）の提供頻度増加（上半期 26回実施）、次年度に種類を増やすため（エビとカニ）調査及び面談等を計画 ② 各給食施設において毎月「和食の日」を設け、魚や豆腐などを中心とした和風献立を実施 栄養バランスが整いやすい和食に親しめるよう継続	(1) ① 広報10月号に学校給食の食に関する情報を掲載、11月に食育イベント（第二学校給食センターの見学及び試食、食育・運動講座）を2回実施（39名参加） ② 給食・生活習慣病予防の指導資料を作成し配布 (2) ① 食物アレルギー対応食（卵と乳）の提供頻度増加（R6年度43回からR7年度59回）、次年度からエビとカニも対応することを決定し準備を実施 ② 各給食施設において毎月「和食の日」を設け、魚や豆腐等を中心とした和食献立を年間を通じて実施
⑥	○小中学校のあり方の検討 (1) 「上田市小中学校のあり方に関する基本方針」を踏まえた具体的な学校の適正配置計画の検討	(1) 4月～3月	(1) 小中一貫校等、少子化に対応した学校のあり方の調査・研究	(1) 適正配置計画の素案作成に向けて先進自治体の事例調査・研究	(1) 適正配置計画の構成・策定方針の検討、義務教育学校を中心とした小中一貫教育の調査・研究、先進地視察の実施
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題	

令和7年度 重点目標管理シート

重点目標		安全・安心な教育環境の整備			部局名	教育委員会	優先順位	2位
総合計画における位置付け		第5編 教育【生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり】 第1章 次代を担う人づくり 第1節 教育環境の整備と地域ぐるみの教育推進			上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	2 教育・子育ての環境・文化の充実を促進する		
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 エ 公共施設マネジメントの推進						
現況・課題	少子化が進行する中、多様な学習内容・学習形態に対応するとともに、安全・安心な教育環境と将来にわたり持続可能な学校施設の整備を進める必要があります。人口増加がピークであった昭和40年代・50年代に建てられた学校施設が耐用年数を迎えるに当たり、将来の人口減を見据える中で、計画的な施設配置・施設規模を検討する必要があります。							
目的・効果	現在の学校施設配置を続けた場合、人口減少による小規模校(過小規模校)化や空き教室の増加等により、非効率的な施設の維持管理を余儀なくされ、財政を圧迫する一因となります。そのため、学校施設の再配置も視野に入れながら、児童・生徒にとって必要な学習環境を確保しつつ、施設の維持管理経費の抑制を図ります。					該当するSDGsの目標		
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 (いつ・いつまでに)	数値目標（どの水準まで）	中間報告 (目標に対する進捗状況・進捗度) 及び (中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点)	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）			
①	○第五中学校改築事業(国庫補助事業) (1) 旧校舍棟ほか解体工事 (2) 屋内運動場改築(令和9年度完成) 及びプール改築工事（令和8年度完成）	(1) 令和7年12月 (2) 令和7年11月	改築を行う屋内運動場及びプールについて、令和8年度の完成を目指すため、 (1) 旧校舍棟ほか解体工事を12月までに完了 (2) 解体跡地での屋内運動場及びプール建設を11月までに着工	(1) 令和7年12月の竣工に向け、計画通り進行中 (2) 屋内運動場については、建築工事費の高騰により予算の追加補正が必要となったため、着工については、12月以降となる見込みである。また、プール授業において、本年度、一部の小中学校で公共及び民間施設を利用した授業を試験的に行い、その結果次第で全小中学校のプール授業については、公共及び民間施設を利用していく方針とすることが決まったため、プールの改築については、保留することとした。	旧校舍ほかの解体については、目標通りの成果があったが、屋内運動場については、建築工事費の高騰により予算の追加補正が必要となったため、着工については、2月となった。また、プールの改築については、公共または民間施設を利用したプール授業の検討を行うため、保留することとした。			
②	○小学校トイレ改修事業(国庫補助事業) (1) 城下小学校トイレ改修(A=176㎡)	(1) 令和8年3月	(1) 校舎1階から2階の男女トイレの洋式化及び内装を年度内に改修完了	(1) 令和7年7月に業者が決定し、学校と詳細な打合せをしながら、年度内に整備が完了するよう施工中	(1) トイレ環境の整備を行うことで衛生面での環境向上が図られ、和式便器が使えない児童のトイレ利用が容易となった。また、洋式化に合わせて配管設備などの更新もされたことで経年劣化対策ができた。			
③	○小学校照明器具LED化改修事業 (1) 市内小学校11の校舎棟、屋内運動場の照明器具をLEDに改修	(1) 令和8年3月	(1) 市内小学校(11校)の照明器具のLED改修を年度内に完了	(1) リースによりLED化するための契約を締結し、各学校と工程を調整しながら、年度内に改修を完了するよう施工中	(1) 小学校11校全ての照明器具についてLED化が完了した。改修されることで学習環境の改善が図られ、LED照明としたことで省エネも図られた。また、工事による改修ではなく、リース発注としたことで事業費の削減と予算の平準化が図られる。			
④	○学校施設の適正な営繕の実施 (1) 各学校からの営繕要望に対し、営繕実施の可否について判断の上、経費圧縮に努めながら、迅速かつ適切な事業の推進	(1) 令和8年3月	(1) 営繕が必要な主要箇所について、概ね年内(12月)に発注を完了	(1) 上半期において、緊急対応が必要なエアコン修繕、消防設備修繕、漏水修繕等の営繕要望が多くあったため、小中学校費において増額補正 小中学校からの営繕要望に対し、順次対応 ・発注件数(9月末現在) 小学校 101件 中学校 37件	(1) 学校より常時報告される営繕要望について、必要の有無及び優先順位を適切に判断し対応した。 ・発注件数 小学校 153件 中学校 60件			
⑤	○学校給食施設の計画的な整備 (1) 第二学校給食センター外構工事の実施 (2) 第一学校給食センター改築事業の検討継続	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 外構工事の完了 (2) 改築事業の候補地決定及び実施時期の検討	(1) 令和8年2月末竣工に向けて外構工事を継続 (2) 関係部署で第1回検討会議を開催(7月)、事業内容について検討	(1) 令和8年3月外構工事完了 (2) 関係部署で検討会議を3回(7、11、12月)、現地視察を1回(10月)実施し、新施設整備の必要性を確認 候補地等事業内容の検討を継続			
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題				

令和7年度 重点目標管理シート

重点目標		文化遺産の保存・継承・活用			部局名	教育委員会	優先順位	3位
総合計画における位置付け		第6編 文化・交流・連携【文化を育み、交流と連携で風格漂う魅力あるまちづくり】 第1章 多彩な文化芸術の継承と創造 第1節 文化遺産の継承と活用			上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け		2 教育・子育ての環境・文化の充実を促進する	
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け								
現況・課題		地域の歴史と文化を次世代に継承していくために、文化財への関心を高めるとともに、保存と活用を推進してその価値を高め、より魅力あるものにしていく取組が求められています。史跡上田城跡においては、旧市民会館の解体と並行して発掘調査を継続して進め、武者溜りの具体的な整備計画を検討する必要があります。また、本丸櫓の復元的整備の実現に向け、調査を継続するとともに、整備に向けた機運のさらなる醸成が求められています。						
目的・効果		「上田市文化財保存活用地域計画」を推進し、史跡や建造物等の保存とともに積極的な公開や活用を行い、文化財を生かしたまちづくりに取り組みます。また、上田城跡整備を進め、史跡としての本質的価値を充実させるとともに、史跡公園として歴史的景観を復旧することで上田城跡のブランド力を高め、観光拠点としての魅力向上に寄与します。			該当するSDGsの目標			
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）			
①	○上田市文化財保存活用地域計画の推進 (1) 文化財の保存 ① 文化財の指定・登録の推進 ② 文化財の防災・防犯、保存事業の推進 (2) 文化財の活用 ① 市指定・国登録文化財の周知 ② 文化財の積極的な活用 ③ 活用推進を図るための地域連携	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) ① 文化財の市指定・国登録の推進（2件以上） ② 文化財パトロールの実施 修理等保存事業、防災・防犯対策の支援（2件以上） (2) ① 新指定・登録文化財の情報発信 ② 文化財de文化祭の開催（2回）、文化財建造物修理の見学会等の実施 ③ 文化財の保存・活用を担う地域活動団体との連携事業の実施	(1) ① 8月に「東福寺禮信徒会館」が新たに国登録有形文化財となる。市指定文化財について文化財保護審議会で継続審議している2件の追加調査実施中 ② 文化財パトロールを随時実施（50件） 保存・防災・防犯事業の支援（7件実施中、信濃国分寺三重塔、大明神寮、下之郷三頭獅子、保野塩野神社回り舞台、芳泉寺木造阿弥陀如来立像、大円寺火定跡、前山寺三重塔） (2) ① 令和6年度市指定の「刀」を博物館で展示し公開 ② 文化財de文化祭を計画 ③ 旧倉沢家住宅の環境整備や活用に協力いただいている地域住民団体と連携し美化作業を実施（6/7、8/23、10/4）	(1) ① 8月に「東福寺禮信徒会館」、11月に「旧土屋家住宅主屋」が新たに国登録有形文化財となる。3月に「松山塾の製作用具及び製品」が民俗文化財では上田市で初めて国登録有形文化財となる。市指定文化財について継続審議している1件の追加調査を実施、仏像2件の指定諮問を行った。 ② 文化財パトロールを随時実施（50件） 保存・防災・防犯事業の支援を実施（信濃国分寺三重塔、大明神寮、下之郷三頭獅子、保野塩野神社回り舞台、芳泉寺木造阿弥陀如来立像、大円寺火定跡、前山寺三重塔） (2) ① 令和6年度市指定の「刀」を博物館で展示し公開 ② 文化財de文化祭を開催（3/15） ③ 旧倉沢家住宅で、地域住民団体と連携し保全活動や地域住民向けの見学会（11/2）を実施			
②	○史跡上田城跡保存活用事業の推進 (1) 武者溜り整備事業の推進 ① 発掘調査 ② 整備基本計画改訂 ③ 旧市民会館記録保存調査及び解体工事の推進 (2) 櫓の復元的整備に向けた調査等の推進 (3) 市民・学校等と連携した魅力発信の取組の強化	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月	(1) ① 発掘調査及び現地説明会の実施 ② 整備基本計画の改訂 ③ 旧市民会館の建造物記録保存（3次元撮影）の実施、旧市民会館解体工事 (2) 発掘調査、資料調査（懸賞金事業）、機運醸成事業の実施 (3) 出前講座（10回以上）、小中学校等の学習支援（1校以上）、市民団体との共催事業等の実施（3団体以上）	(1) ① 三十間堀の調査を実施予定 ② 計画改訂作業を実施中 ③ 旧市民会館建造物記録保存（3次元撮影）を5月に業務委託、旧市民会館解体工事に着工 (2) 本丸西虎口、隅櫓の調査を実施予定、資料調査を実施中、上田城干本桜まつりでPRブースを開設、南北櫓の夜間公開を7/5に開催 (3) 出前講座を実施（3回） 中学校2校、大学1校の支援を実施 上田城復元の夢を叶える市民の会、上田城復元推進協議会、信州上田観光協会、おいでよ上田と連携しPR事業などを実施	(1) ① 三十間堀跡でボーリング調査を実施 ② 計画改訂作業を実施中 ③ 旧市民会館建造物記録保存（3次元撮影）を実施 旧市民会館解体工事に着工（6月） (2) 本丸西虎口、北西隅櫓の調査及び現地説明会を実施 資料調査を継続実施 上田城干本桜まつり、紅葉まつりでPRブースを開設 西櫓の掃除及び特別公開企画を10/18に開催 上田城トークショー、ツアーを11/8、9に開催 (3) 出前講座を実施（7回） 中学校2校、大学1校の支援を実施 上田城復元の夢を叶える市民の会、上田城復元推進協議会、信州上田観光協会、おいでよ上田と連携しPR事業などを実施			

③	○郷土の歴史、文化、先人・偉人の業績等を知る機会の創出 (1) 郷土ゆかりの先人・偉人の顕彰事業 (2) 郷土の歴史、文化、人物等をテーマとした展覧会や講座等の開催 (3) 市立博物館の施設リニューアルに向けて関係部署と連携した検討 (4) 発掘した文化財等の活用	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月 (4) 4月～3月	(1) ① 信州上田ふるさと先人館運営 ② 市民団体・公民館と連携した「出張どこでも先人館」実施（4回以上） ③ 学校等と連携した先人・偉人の顕彰事業の実施 (2) 市立博物館及び信濃国分寺資料館における企画展の開催（4回）、体験教室、講座等の開催（15回以上） (3) 上田城跡WG会議等（他課連携）での検討会（4回以上） (4) ① クジラ化石のクリーニングと情報発信事業の実施 ② 学校・公民館連携による学習教材活用事業の実施（2回以上）	(1) ① 信州上田ふるさと先人館を4月から運営 ② 「出張どこでも先人館」を実施（2回） ③ 先人・偉人を学習するための環境整備を計画中 (2) 市立博物館では、企画展を1回、各種講座を7回開催し、信濃国分寺資料館では、企画展を1回、体験教室、講座を2回開催した。 (3) 上田城跡WG会議等（他課連携）へ3回出席し、博物館のリニューアルについても検討を進めた。 (4) ① クリーニング作業を実施中 年度末に講演会を開催予定 ② 塩田公民館と連携し親子クジラ化石講座を実施（7/29）	(1) ① 信州上田ふるさと先人館を4月から運営 ② 「出張どこでも先人館」を実施（7回） ③ 先人・偉人を学習するための環境を提供 (2) 市立博物館では、企画展を2回、各種講座を11回開催し、信濃国分寺資料館では企画展を2回、体験教室、講座を5回開催した。 (3) 城跡WG会議等（他課連携）へ5回出席し、新しい博物館の整備計画を具現化するための研究を進めた。 (4) ① クリーニング作業を実施中、自然科学講演会を開催（3/21） ② 青少年育成事業で化石体験講座を実施（7/5）、塩田公民館と連携し親子クジラ化石講座を実施（7/29）
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題	

令和7年度 重点目標管理シート

重点目標		生涯学習の推進と学習環境の整備		部局名	教育委員会	優先順位	4 位
総合計画における位置付け		第 5 編 教育【生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり】 第 1 章 次代を担う人づくり 第 2 章 新しい時代を拓く生涯学習環境の整備 第 1 節 教育環境の整備と地域ぐるみの教育推進 第 1 節 生涯学習の推進と学習環境の整備 第 1 編 自治・協働・行政【市民が主役のまちづくり】 第 2 章 すべての人の人権が尊重されるまちづくり 第 1 節 一人ひとりの人権が尊重される社会の実現		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け		2 教育・子育ての環境・文化の充実を促進する	
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(1) 将来を見据えた新たな行政サービスへの改革 イ 多様な主体が市政に参画・協働する制度づくり (2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 オ 受益と負担のあり方の見直し					
現況・課題		豊かな生涯学習社会の実現を目指し、平成27年度に策定した「第二次上田市生涯学習基本構想」に基づき、生涯学習の機会や施設整備をはじめとする生涯学習環境の充実を図る取組を行っています。現在の基本構想の期間が令和7年度で終了することから、これまでの取組について検証し、新たな基本構想の策定を進めていく必要があります。 地域とともにある学校づくりは、全小中学校でコミュニティスクールの取組が行われており、今後も継続した取組となるよう学校の実情や地域の特徴を生かしながら地域ぐるみで学校を支えていく体制の強化・改善が必要です。 人権同和教育においては、近年SNSにおける差別事象も増加していることから、今後、このような差別が起きないように人権同和教育と啓発を推進していく必要があります。 公民館においては、市民の学習活動を支援していくため、施設利用や分館活動の支援について検討する必要があります。 図書館においては、令和7年度で「第二次上田市図書館基本構想」の計画期間が終了することから、新たな基本構想の策定を進めていく必要があります。					
目的・効果		新たな基本構想の策定に向け、「第二次上田市生涯学習基本構想」に基づいた取組を推進します。 地域とともにある学校づくりの取組を通じ、学校の負担を軽減し、地域ぐるみで子どもたちを育んでいきます。また、実体験の不足しがちな子どもたちのため地域の資源（自然、歴史、人等）を生かし自然体験・社会体験の機会を提供します。 「上田市人権施策基本方針」に基づき、学校、地域等における人権同和教育と啓発を通じ、すべての人の人権が尊重される社会の実現を目指します。 公民館事業の充実、図書館サービスの充実等により、市民の自発的な学習活動の促進、まちづくりに資する人材の育成が期待されます。		該当するSDGsの目標	    		
取組項目及び方法・手段（何をどのように）		期間・期限 (いつ・いつまでに)	数値目標（どの水準まで）	中間報告 (目標に対する進捗状況・進捗度) 及び (中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点)		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
①	○第三次生涯学習基本構想策定 (1) 生涯学習基本構想策定の推進 (2) 生涯学習基本策定委員会による諮問に応じた調査審議	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 庁内関係課会議の開催、調整及び基本構想の策定、本編冊子等の作成、印刷 (2) 策定委員会の開催（4回）、諮問に対する答申	(1) 庁内関係課会議を2回書面開催（5/23、7/11） (2) 策定委員会を2回開催(5/26、7/28)、策定委員会正副会長会議を1回開催（5/16）		(1) 庁内関係課会議を2回書面開催（5/23、7/11） (2) 策定委員会を4回開催(5/26、7/28、9/29、1/26)、策定委員会正副会長会議を3回開催(5/16、9/22、1/21) 構想（案）を答申（1/26）	
②	○地域とともにある学校づくりの充実 (1) 地域ぐるみでが学校を支えていく取組の推進と地域における交流・情報交換の支援 (2) 学校支援ボランティア活動推進のため活動を紹介	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 情報交流会の開催（1回）、必要に応じ公民館職員及びコーディネータ向けの基礎研修会の開催 (2) 学校支援ボランティアの活動紹介・周知（リーフレット・ホームページ・学校支援だより）	(1) コミュニティルーム見学会（6/24：参加者25人）、読み聞かせボランティア交流会（7/15：参加者91人）、学校支援ボランティア交流会（8/19：参加者66人）、基礎研修は該当者少数のため個別に対応（参加者3人） (2) 学校支援だよりを4、8月に発行（配布先：学校支援ボランティア、学校運営委員、学校等）		(1) コミュニティルーム見学会（6/24、9/24：参加者53人）、読み聞かせボランティア交流会（7/15：参加者93人）、学校支援ボランティア交流会（8/19：参加者66人）、基礎研修は該当者少数のため個別に対応（参加者3人） (2) 学校支援だよりを4、8、11月に発行（配布先：学校支援ボランティア、学校運営委員、学校等）活動紹介とボランティアのしおりを掲載したリーフレットを作成（6,000部） 市内小中学校数校の取組を3月にホームページへ掲載	
③	○人権同和教育・啓発の推進 (1) 「上田市人権施策基本方針」に基づく人権同和教育・啓発の推進 (2) 人権尊重の精神が日常的に発揮できる講演会・研修会等の事業の実施 (3) 地域における人権学習事業の推進	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月	(1) 学校、家庭、地域、企業における人権同和教育・啓発の推進 (2) 各種人権啓発推進団体が行う市民の人権意識向上のための事業の実施（講演会・研修会の開催4回） (3) 自治会・分館の主体的な人権学習活動の支援	(1) 家庭、地域、企業、各小中学校において様々な機会を捉え人権同和教育・啓発 (2) 人権啓発推進委員会定期総会（5/14）、企業人権教育連絡会新入社員研修会（4/17）・定期総会（5/29）にてそれぞれ講演会を実施、人権を考える市民のつどい（10/8）等の準備 (3) 「地域における人権学習事業」による自治会・分館の学習活動支援（52件）		(1) 家庭、地域、企業、各小中学校において様々な機会を捉え人権同和教育・啓発 (2) 講演会、研修会を実施（年間6回開催）、「人権啓発推進委員会定期総会」（5/14：参加者52人）、「企業人権教育連絡会新入社員研修会」（4/17：参加者94人）、「企業人権教育連絡会定期総会」（5/29：参加者65人）、「人権を考える市民のつどい」（10/8：参加者約1,200人）、「人権啓発担当者研修会」（11/22：参加者99人）、「人権フェスティバル」（2/21：参加者延べ約550人） (3) 「地域における人権学習事業」による自治会・分館の学習活動支援（98自治会・分館、92件）	

④	○青少年の健やかな成長を支援する取組の充実 (1) 生きる力を育む自然体験活動、集団遊び・集団生活の機会提供 (2) 社会変化に対応した健全育成を支える環境づくり (3) 地域におけるこどもまんなか社会学習事業の推進	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月	(1) 子どもや青少年が地域の自然を体験したり集団で遊ぶ事業の実施(6回) (2) インターネット・スマホ適正利用啓発リーフレット発行(15,000部) (3) 自治会・分館の主体的なこどもまんなか社会学習活動の支援(40件)	(1) 野外体験活動等促進事業を2回実施(7/5、9/6) (2) インターネット・スマホ適正利用啓発リーフレット発行に向けた情報収集 (3) 「地域におけるこどもまんなか社会学習事業」による自治会・分館の学習活動支援(22件)	(1) 野外体験活動等促進事業を6回実施(7/5、9/6 10/18 11/29 12/13 2/7) (2) インターネット・スマホ適正利用啓発リーフレットの発行(15,000部) (3) 「地域におけるこどもまんなか社会学習事業」による自治会・分館の学習活動支援(49自治会・分館等、34件/827人) 【参考】R6 35件/666人
⑤	○公民館事業の充実 (1) 多様な学びの機会の充実 (2) 分館活動支援による地域づくりの推進 (3) 公民館の活性化に向けた取組	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月	(1) 各世代のニーズに応じた講座・事業の実施 ① 地域課題の解決に繋がる講座・事業の実施 (2) 分館活動推進に係る研修会等の実施 ② 地域での結びつきを高める共催事業等の実施 (3) ① 利便性の向上、新たな学習者の掘り起こし ② 地域人材の発掘・養成	(1) 子育て支援親子ふれあい広場等15事業83回実施(参加者1,798人)、青少年育成夏休み子ども講座等33事業70回実施(参加者1,863人)、成人学級健康講座等50事業104回実施(参加者3,952人)、高齢者教育ことぶき大学等8事業30回実施(参加者926人) ② 防災等地域課題学習講座 10事業36回実施(参加者650人)、夏休み学習室の開設4館 (2) ① 分館役員会議等12回実施 ② スポーツ大会等28回実施 (3) ① 施設貸出区分の変更、予約システム稼働に向けたシステムの構築、LINE等を活用した情報発信の検討 ② 事業への高校生等の参画、学校との連携・コーディネートの実施	(1) 子育て支援親子ふれあい広場等20事業213回実施(参加者5,340人)、青少年育成夏休み子ども講座等42事業134回実施(参加者2,551人)、成人学級健康講座等80事業242回実施(参加者6,683人)、高齢者教育ことぶき大学等19事業92回実施(参加者2,197人) ② 防災等地域課題学習講座22事業70回実施(参加者1,687人)、夏休み学習室の開設4館 (2) ① 分館役員会議等34回実施 ② スポーツ大会等50回実施 (3) ① 施設貸出区分の変更、予約システム稼働に向けたシステムの構築及び運用開始、LINE等を活用した情報発信の実施 ② 事業への高校生等の参画、学校との連携・コーディネートの実施
⑥	○図書館サービスの充実 (1) 第三次上田市図書館基本構想の策定 (2) 上田図書館整備計画の策定の推進 (3) 第三次上田市子ども読書活動推進計画策定準備	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月	(1) 構想案の作成推進、図書館協議会及び社会教育委員会議で構想案の審議 (2) 第三次上田市図書館基本構想へ上田図書館整備方針を盛り込む (3) 第二次計画の進捗状況・課題の確認	(1) 上田市図書館協議会において審議し、素々案を策定後、上田市社会教育委員会議へ諮問 (2) 祖素案における上田図書館の施設整備の方向性の反映、基本的な考え方の位置付け、整備手法の明確化 (3) 課題確認に向けての作業の開始	(1) 上田市図書館協議会および上田市社会教育委員会議の審議を経て、基本構想の策定完了 (2) 第三次上田市図書館基本構想への上田図書館整備方針の反映を実現 (3) 第三次上田市図書館基本構想における基本施策としての「子ども読書活動の支援」の位置付けと計画策定に向けた課題および進捗状況を確認
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題	